



志木四小だより

学校教育目標

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○やりぬく子 ○元気な子

志木市立志木第四小学校

令和2年度 No 7

令和2年10月1日

志木市館1丁目4番1号

TEL 048 - 474 - 7911

児童数 10月1日現在 442名



いじめの芽を摘め

志木市立志木第四小学校長 可知良之

先日コンビニエンスストアに買い物に行ったときの事です。レジで支払いをしようとしたとき、店員さんが何やら私に喋っています。ですが、何を言っているのかよく聞こえません。コロナ対応のため、そのお店でもマスクをして飛沫防止スクリーンの向こうから喋っているため声が全く聞こえなかったのです。こちらがもたもたしているのに店員さんもイライラしているようです。焦ると悪いことは続くもので支払う金額は間違えるし時間はかかるし、店員さんの冷ややかな対応にも腹が立ってしまい大変嫌な気持ちで帰ってきました。人は、ゆとりがなくなると他人の気持ちが考えられなくなるものです。コロナ禍での様々な予期せぬ出来事にどこか心が荒んできてはいないか心配になります。幸い家に帰って、家族と楽しいことを話していたらすっかり気持ちも落ち着きました。

こんな出来事があって、ふと子供たちの日常を考えてみたとき、大人社会での問題が子供の世界でも大きな問題になっているのではないかということです。昨年、学校の先生が同僚から辛辣ないじめを受けて精神疾患になってしまったという事件がありました。大人の世界でのいじめはこれまでも当たり前の様にあつた訳ですが、ついに私たち教職に就く者までもがいじめを平気で行えるようになってしまった、その事実には愕然としました。大人社会でのいじめはなくなるどころか、ますます増加しています。子供の範となるべき大人がこの有様では、子供たちのいじめはなくなるはずがあ

りません。今ここで、大人たちが何とかいじめ問題に真剣に取り組んでいかなければ・・・

いじめを漢字で書くと「苛め」と書きます。苛酷の苛を訓読みすると苛めとなります。いじめとは、受ける側の人間にとっては死ぬほど辛い苛酷な状況に追い込まれることです。平仮名よりその深刻さが伝わります。全国での小学生でのいじめの認知件数は42万件5844件(2018年度)昨年度の本校での認知件数は8件でした。いじめを認知できた件数ですので、認知できなかったいじめやいじめとして認知するに至らなかったいじめの芽のようなものはこの数字には入っていません。あくまでもいじめとして認知し、校内のいじめ対策委員会で審議したいじめだけです。いったいいじめの芽はどのくらいあるものなのでしょうか。ハインリッヒの法則によれば、1件の重大事故が起きる背景には29件の小さな事故が起きていて、さらに300件の予兆があるとされています。この法則を当てはめてみると、本校の8件のいじめ事案の背景にはその10倍程度のいじめの予兆(芽)があつてもおかしくないはずですが、計算するとおよそ80件になります。児童400人に対して20%程度はいじめの予兆があつたことになります。少々乱暴な計算ですが、いじめの芽に大人が早く気がつきその芽を丁寧に摘んでいくことがとても大切ではないでしょうか。

次号(11月号)に続く